

評価テーマ

- ①周囲の景観、学校施設と調和、動線に配慮した施設であるとともに、村民の豊かな生活維持のための芸術・文化活動拠点にふさわしい場となるよう計画することについて配慮する事項についての提案。

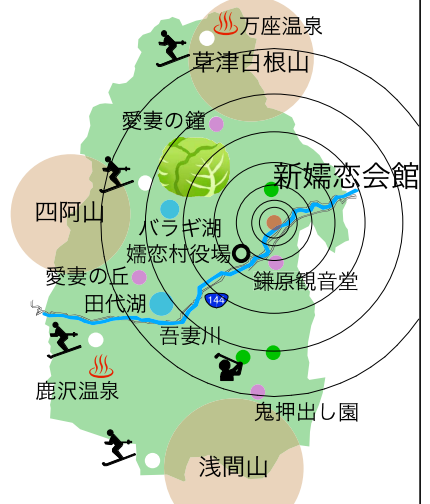
◆周囲の景観、学校施設との調和、動線に配慮した施設計画

嬬恋村の目指すグランドデザインを実現するために

標高二千メートル級の山々に囲まれ上信越国立公園の山麓に広がる「嬬恋村」は村の中央部を吾妻川が流れ、集落の大部分は流域に散在しています。
気候は高原地帯であることから夏は避暑、冬はウインタースポーツなどのレジャー施設が充実したリゾート地でもあります。

多くの観光資源に恵まれ、温泉や史跡も多く縄文の時代から人々の営みがある嬬恋村は、これからの公共施設の在り方を村の将来像として策定するグランドデザインに基づきマネジメントする必要があります。

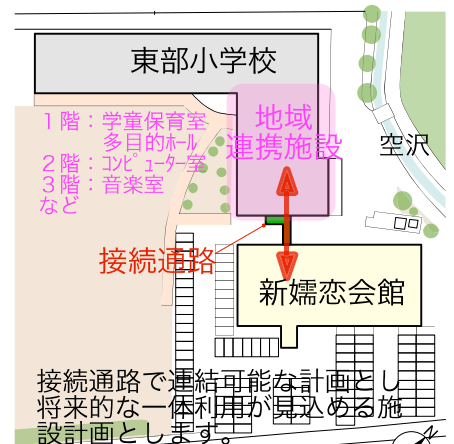
村に点在する各エリアにそれぞれ特色の有る役割をもたせ、嬬恋村の魅力を更に高める計画を推進します。
三原地区は村の玄関口でもある万座鹿沢口駅があり、文教施設の集積する地でもあることから芸術・文化活動の拠点として位置づけることが出来ると言えます。



新嬬恋会館建設地から望む豊かな景観



浅間山北麓ジオパークを構成する要素として、かつての嬬恋湖成層や鎌原泥流の痕跡が風景として広がり、対岸の三原桜並木と共に豊かな景観を形成しています。
新嬬恋会館はこれらの風景を採り込み、正面の景観を外観の造形に写し採ることで地域性豊かな新たな風景を創るものとします。



背景の山並みや三原地区集落、東部小学校や嬬恋高校等の景観適要素の共有化を図ると共に、土地利用率の向上と東部小との連携施設として相互利用を視野に入れた施設計画とします。



軒高をそろえ公共施設としての連続性と一体性を高める

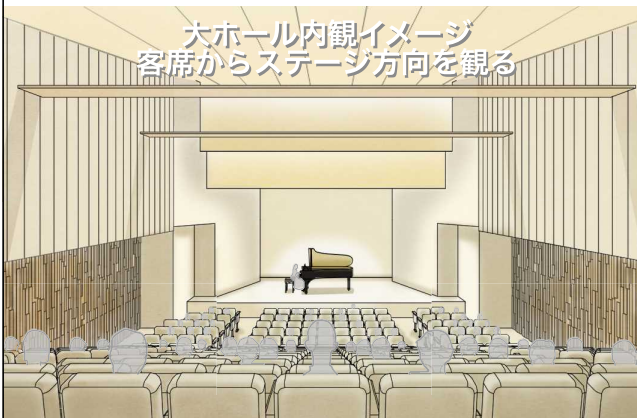
“空沢”沿いに新嬬恋会館を望む

◆村民の豊かな生活を維持するための芸術・文化活動拠点にふさわしい施設計画

東部小学校を含めた屋根の連続性は山並みのシルエットに調和する形態となります。



芸術・文化活動の拠点施設として機能美と構造美から構成される創造的な造形により、存在感のある美しいデザインとします。

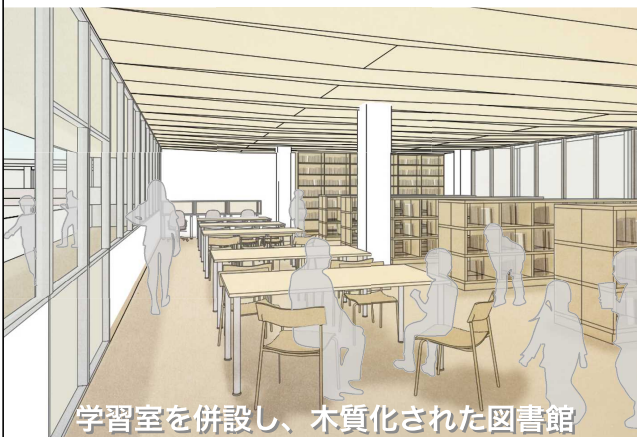


大ホール内観イメージ
客席からステージ方向を観る

大ホールは多機能施設として300席を確保した多目的ホールとして整備し、ロールバックチェアを採用することで椅子格納時は平土間ホールとして様々なイベントに対応します。

コンサートホールとしての仕様にも対応するため、音響や照明等の設備を充実した施設計画とします。

収納式ステージや昇降式の迫りを設けることで、ステージ面積を含めたフルフラットな平土間空間の創出が可能となります。基本設計にて細部の検討を行い提案します。



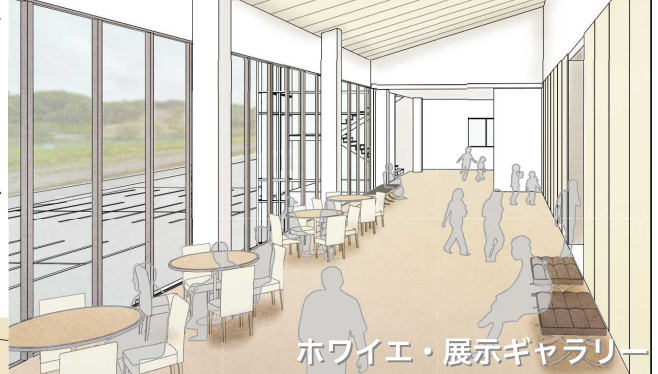
学習室を併設し、木質化された図書館

県産材木材を多用した温もり溢れる大空間



シューボックス型ホールとし、側壁からの反射音と高天井からの豊かな残響音を実現します。長時間聴取にも疲労感のない明瞭な拡声を提供します。

天井の高い開放的なホワイエは受付や休憩のほか、村民制作の絵画や書画を展示する常設のギャラリーとして機能します。



ホワイエ・展示ギャラリー

南面する大きな開口部から吾妻川や三原桜並木の美しい景観が望めます。

1万冊を超える開架書架をもつ図書室は遮音性に配慮したガラス張りの空間として整備することで、ロビーから内部の様子を伺い知ることができ、気軽に利用できる身近な存在として親しまれます。

東部小の校庭を望む窓側に30人分の学習スペースと読書テラスを設け、景観と眺望を楽しみながら時間を過ごすことができる空間を用意します。